図106　窯跡の位置　1,前平野窯跡
2,重稲場窯跡　5万分1地形図「弥彦」

前平野・重稲場窯跡　西蒲区仁箇・下木島

前平野窯跡は、稲島から仁箇の集落に向けて派生する台地の緩斜面に作られた須恵器の窯跡である。窯跡があった場所は古くからの土取り場で、昭和三十四（一九五九）年から四十一年にかけて行われた鎧潟の干拓に伴う土取りによって遺跡は消滅した。

図一〇七は現存する唯一の資料である。大きな甕の肩に坏を並べて窯の中で一緒に焼いたものの、途中で甕の口が折れ下がってしまい、甕の肩と口の間に坏が挟まれたままくっついてしまったものである。失敗品のため消費地に流通することなく窯場に廃棄された、窯跡ならではの遺物である。当時の窯焼きの方法を知ることのできる貴重な資料であり、市の文化財に指定されている。

角田山麓の須恵器窯跡は、前平野窯跡のほかに下木島にある重稲場窯跡が知られている。この窯も土取りによって消滅してしまったが、昔を知る人の話によれば五つほどの窯があったらしい。これまでに数十個体の坏の破片が見つかっており、中には窯の壁土がくっついた坏も確

認されている。これらの遺物から、前平野窯跡は九世紀初頭ころ、重稲場窯跡は八世紀後半ころに操業していたと考えられる。

図107　溶着した須恵器の甕と坏　前平野窯跡

図108　須恵器の坏　重稲場窯跡

須恵器の生産には大量の薪と粘土が必要である。また、古代の窯跡は「郡」程度の範囲への供給を基本単位として分布している。このことから、須恵器の生産には地元の豪族や役人が関与していたと考えられている。角田山麓における須恵器生産も、地元の有力者が携わっていたのであろう。しかし、二つの窯跡とも規模が小さく、生産された須恵器の流通範囲も狭かったようで、五〇年ほどの短期間で操業を終えている。

前平野窯跡と重稲場窯跡の遺物は、巻郷土資料館に展示されている。